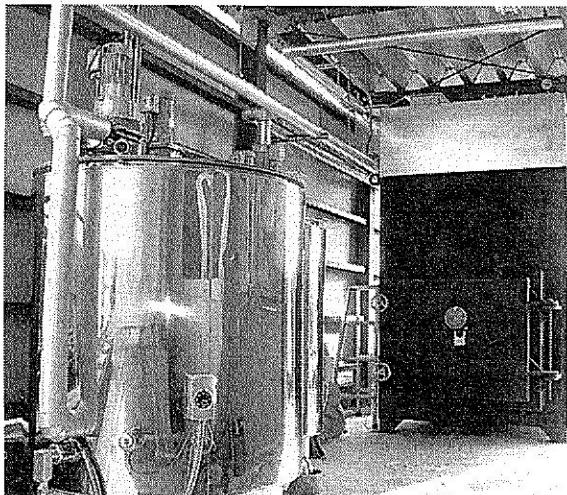


# 持続可能な農業再生は消費

&lt;下&gt;



バイオマスボイラーの導入でフロス処理費用削減、  
ボイラーフuel費低減とCO<sub>2</sub>排出量削減を実現した

苦勞はいろいろとあります。例えば、お客様から回づいて研究してもらっています。収した卵パックで同じもの。いろいろな計算式があり、信頼をさらに得られるよ。

昭和産業グループの関連冷凍メーカー、昭和冷凍食品(新潟市)の09年12月末業績は売上高29億5300万円で前年比1・3%増、利益も若干上回った。小麦粉価格下がりや工場の生産効率化が奏功した。昨夏以降、単価下落と競合激化で苦戦し、今期は価格要求がさらに強まった。今期は通常売上高29億5000万円で前年並み利益を目指すが、単価ダウンの

回復に繋ぎ、今年は船積の冷凍生地開発室でも取得して全社で認証を得る。お客様の信頼をさらに得られるよ。

## 廃棄物系バイオマス活用

ミートコンペニオンは新潟第2工場デリカセンター(新潟県十日町市)で「地域バイオマス利活用交付金」を受けてバイオマスボイラーを導入し、昨年10月に正式稼働させたが、効果を上げ始めた。09年度の目標として掲げた浮上油脂(フロス)と純水油(ラード)を合わせた廃棄物系バイオマス利用率100%達成ほぼ確実で、フロス処理費用削減、既存のボイラー燃料費低減とCO<sub>2</sub>排出量削減を実現することを、事業計画に明記した。「資源循環社会形成」にも大きく貢献しそうだ。同社は「フロス処理費用削減とボイラー燃料費低減で年間約960万円の経費節減を達成できる」として導入効果を高く評価している。

新潟第2工場ボイラー導入機で実証  
同センターではバイオマスストラップ導入以前、クリヤー式は産業廃棄物として専門業者に処理を委託していたが、処理費用が年間約850万円かかっていた。また、製造段階で排出されるボイルア導入を軸としたサーマルリサイクルを構築することで、約8000kg/hの効率と高燃焼力口りの燃料として活用している。

ミートコンペニオンは新潟第2工場デリカセンター(新潟県十日町市)で「地域バイオマス利活用交付金」を受けてバイオマスボイラーを導入し、昨年10月に正式稼働させたが、効果を上げ始めた。09年度の目標として掲げた浮上油脂(フロス)と純水油(ラード)を合わせた廃棄物系バイオマス利用率100%達成ほぼ確実で、フロス処理費用削減、既存のボイラー燃料費低減とCO<sub>2</sub>排出量削減を実現することを、事業計画に明記した。「資源循環社会形成」にも大きく貢献しそうだ。同社は「フロス処理費用削減とボイラー燃料費低減で年間約960万円の経費節減を達成できる」として導入効果を高く評価している。

## 前期並み確保狙う

昭和冷凍食品全社ISO取得へ

## 最多の13社が参加 北を拓く道産ワインの夕べ

北を拓く道産ワインの夕べ

過去最多のメーカー13社が参加した

「第15回北を拓く道産ワインの夕べ」

開催された

開催された